

## 道路評価基準表

評価項目	評価基準		
	整備の必要性が高い	← →	整備の必要性が低い
道路網としての重要度	高い	やや高い	低い
	(1,2 級幹線道路)	(その他道路ではあるが幹線的な役割を果たしている。また、整備後に利便性向上が見込まれるか)	(その他道路で非幹線道路)
公共・準公共施設の密度	高い	やや高い	低い
	(2施設以上が隣接し、アクセス路となっていることが条件となる)	(1施設が隣接し、アクセス路となっていることが条件となる)	(対象となる施設が無い)
交通量 (生活道路)	多い	普通	少ない
	(500台/日以上)	(300台/日程度)	(100台/日程度)
家屋密集度	高い	やや高い	低い
	(密集度が概ね70%以上)	(密集度が概ね50%程度)	(密集度が概ね30%以下)
路面状況	非常に悪い	悪い	やや悪い
	(凍上の影響を大きく受けている。舗装道路の場合は概ね70%以上または砂利道)	(凍上の影響を受けている。舗装道路の場合は概ね50%程度)	(凍上の影響をある程度受けている。舗装道路の場合は概ね30%以下)
排水環境	非常に悪い	悪い	やや悪い
	(排水施設が無く雨水が滞留し、周辺住宅地等に被害がある)	(排水施設はあるが、老朽化等で一部機能していない)	(排水施設は無いが、ある程度自然に排水できている)

注 1.上記の( )内の記載は、評価基準の解説。

2.整備路線の決定は、上記の道路評価(客観)基準により選定された路線を基本に、過去の整備経過や地域の緊急的な必要性など、総合的な判断を行い最終決定しています。